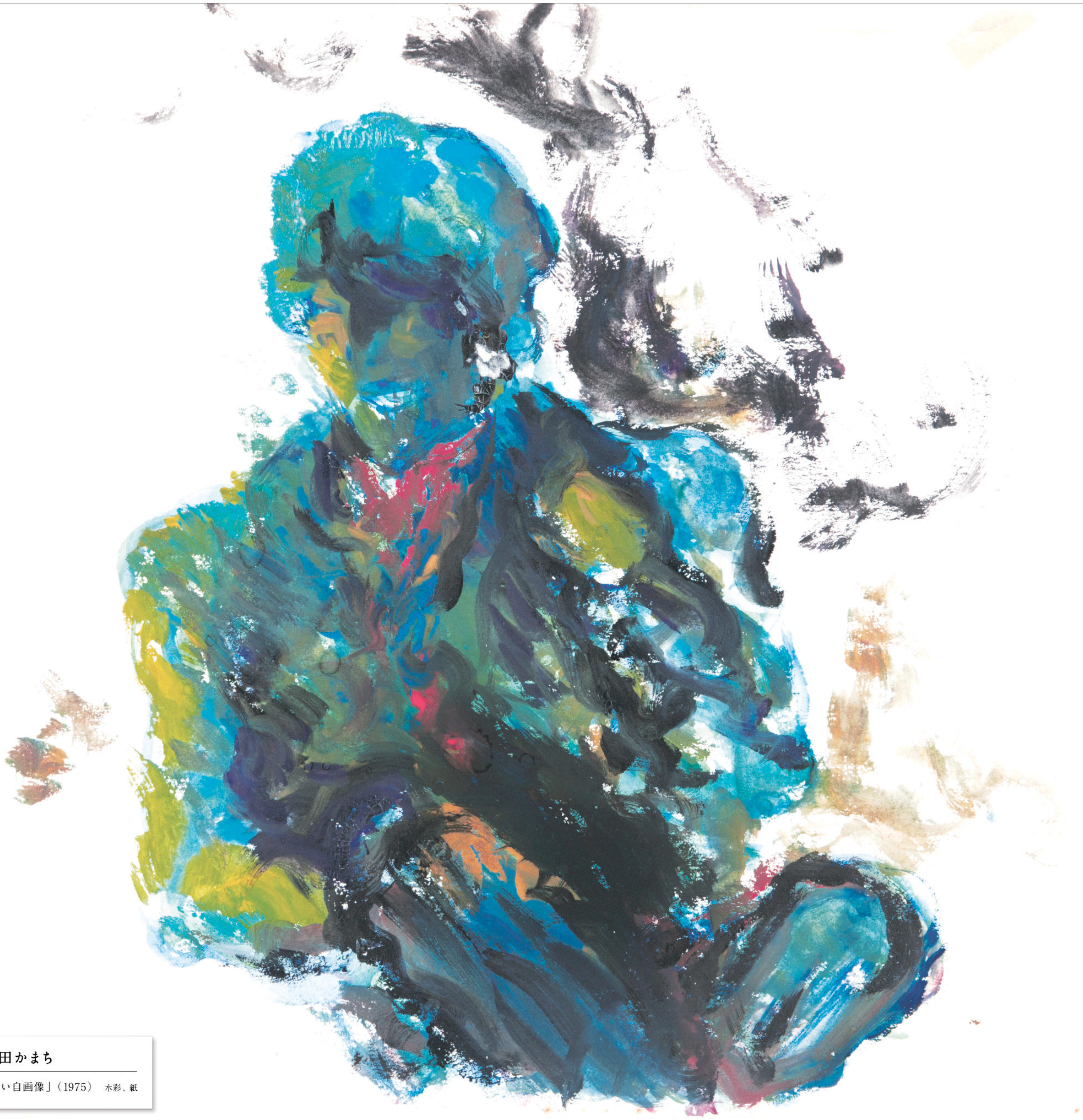
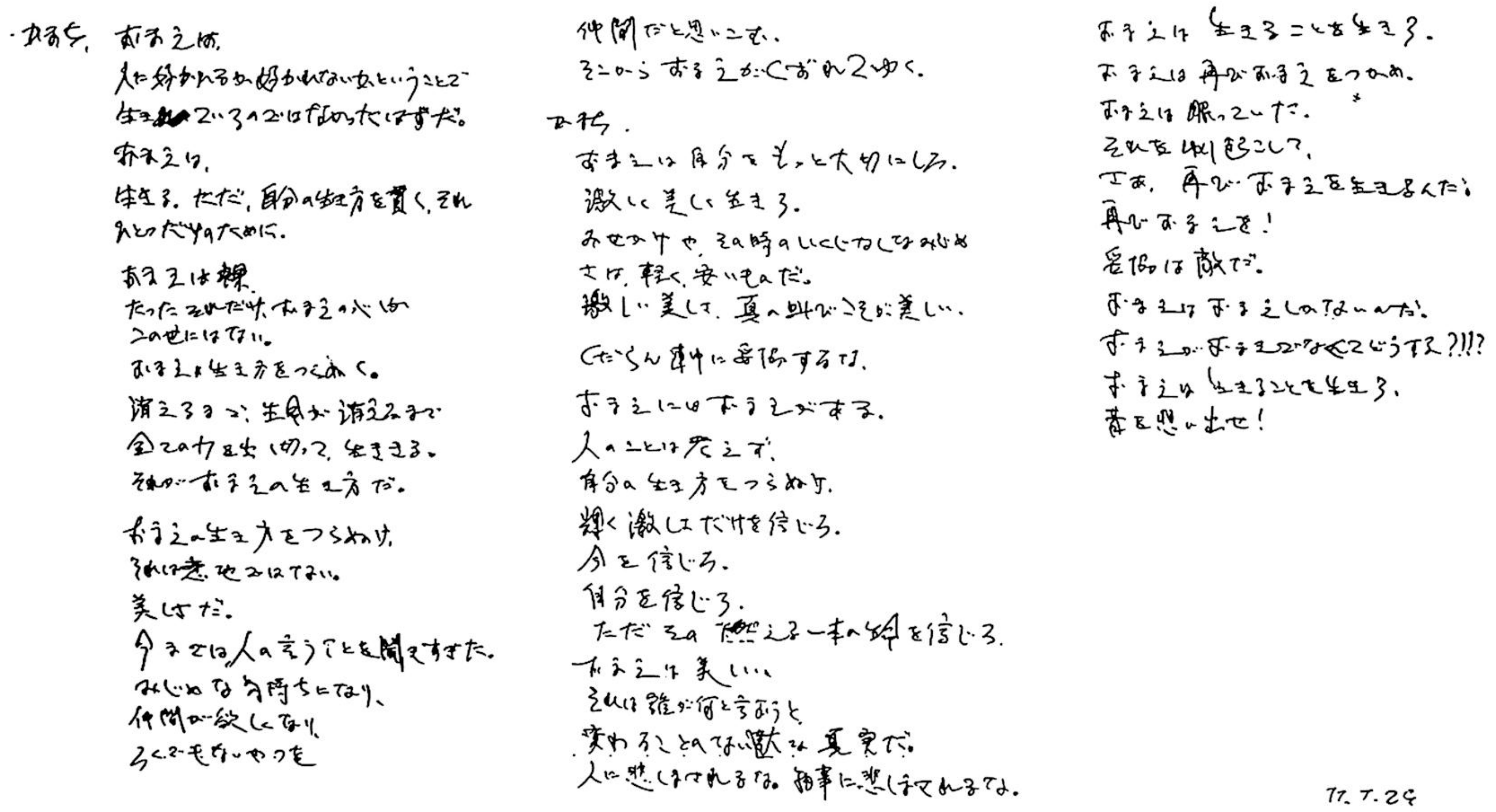


山田かまち

「青い自画像」（1975）　水彩、紙



・おまえ、　おまえは、
人に好かれるか好かれないかということで
生きているのではなかったはずだ。
おまえは、
生きる。ただ、自分の生き方を貫く、それ
ひとつだけのために。

おまえは裸。
たった それだけ、おまえの心しか
この世にはない。
おまえは生き方をつらぬく。
消えるまで、生命が消えるまで
全ての力を出し切って、生ききる。
それがおまえの生き方だ。

おまえの生き方をつらぬけ。
それは意地ではない。
美しさだ。
今までは人の言うことを聞きすぎた。
みじめな気持ちになり、
仲間が欲しくなり、
ろくでもないやつを
仲間だと思いこむ。
そこからおまえがくずれてゆく。

おまえ。
おまえは自分をもっと大切にしろ。
激しく美しく生きろ。
みせかけや、その時のいいかげんなみじめ
さは、軽く、安いものだ。
激しい美しさ、真の叫びこそが美しい。

くだらん連中に妥協するな。

おまえにはおまえがある。
人のことは考えず、
自分の生き方をつらぬけ。
輝く激しさだけを信じろ。
今を信じろ。
自分を信じろ。
ただその燃える一本の炎を信じろ。
おまえは美しい。
それは誰が何と言おうと
変わることのない絶対な真実だ。
人に惑わされるな。物事に惑わされるな。

おまえは生きることを生きろ。
おまえは再びおまえをつかめ。
おまえは眠っていた。
それを叩き起こして、
さあ、再びおまえを生きるんだ。
再びおまえを！
妥協は敵だ。
おまえはおまえしかないんだ。
おまえがおまえでなくてどうする?!!?
おまえは生きることを生きろ。
昔を思い出せ！

77. 7. 24

山田かまち　詩「生きる」